

新産地報告 (9)

上野 勝典*・上野 由貴枝*

New localities of some plants in Nagano Prefecture (9)

Katsunori Ueno and Yukie Ueno

ミチノクエンゴサク (ケシ科)

Corydalis orthoceras 写真 1

・王滝村瀬戸 900 m 2013 年 4 月 28 日
NAC167744

日当たりのよい草地を歩いていたとき、花の小さいエンゴサクが群生しているのに気がついた。よく観察してみると、花の長さが 7 ~ 17 mm 程度と小さく、また花序がヤマエンゴサクのように一方に偏って付かず、等方的に付いていたことから、ミチノクエンゴサクとした(佐竹他 1982)。ヤマエンゴサクと比べると距が細く華奢なように見える。よく探してみると、王滝村から開田へかけて分布しているようで、王滝村周辺には比較的多いような印象をもったものの、長野県ではこれまでに報告されて

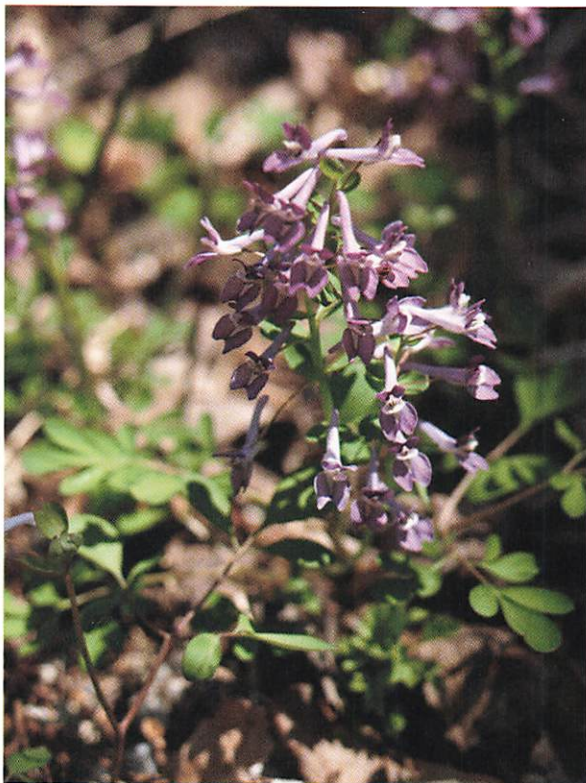


写真 1 ミチノクエンゴサク 大滝村瀬戸
2013 年 4 月 28 日

いない(清水 1997)ため、長野県新産となる。岐阜県側に入ると比較的よく見かけ、日本海側の東北から北陸地方に産する日本固有の植物である(加藤・海老原 2011)。

イヌヌマトラノオ (サクラソウ科)

Lysimachia × pilophora 写真 2

・大桑村のぞきど 850 m 2013 年 7 月 21 日

池周辺の沼地にはヌマトラノオが群生している一方、やや乾いた日当たりのよいところにはオカトラノオも群生しており、その中間地のやや湿った土壌のところに、穂先がやや垂れているが、花を多く付け、また植物体も大きな個体があちこちに生育していた。その特徴からヌマトラノオとオカトラノオの交雑種のイヌヌマトラノオとした。周囲は観光用に

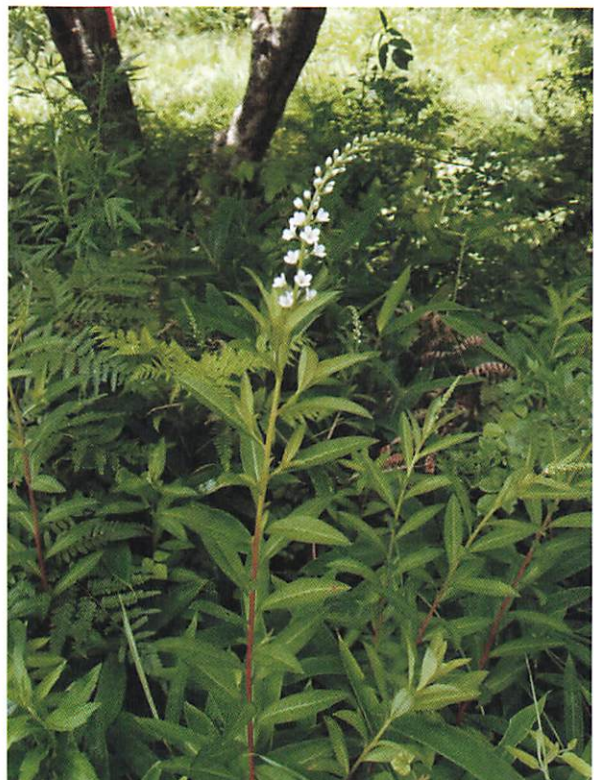


写真 2 イヌヌマトラノオ 大桑村のぞきど
2013 年 7 月 21 日

* 上野勝典・上野由貴枝 〒 399-0011 松本市寿北 2-2-38

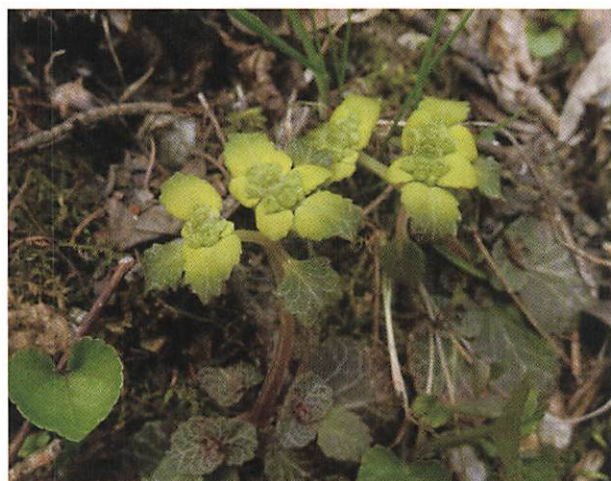


写真3 キンシベボタンネコノメ 穂高町中房川
2013年5月2日



写真4 イナヒロハテンナンショウ 松本市波田
2013年5月28日



写真5 ムカゴソウ 王滝村 2013年8月4日



写真6 シナノショウキラン 塩尻市栖川羽瀨
2013年6月30日

道路が整備されており、環境が攪乱されているために、両者の生育地が近づき交雑が発生したものと想像された。このような環境攪乱によってオカトラノオの仲間は容易に交雑してしまい、基本種が絶滅する危険性がある。県内では野沢温泉に記録がある(清水 1997)。

キンシベボタンネコノメ (ユキノシタ科)

Chrysosplenium kiotense f. *ferginiflorum* 写真 3

・穂高町中房川 1200 m 2013 年 5 月 2 日

NAC167742

溪流沿いの湿ったところにボタンネコノメソウによく似たネコノメソウ類が点々と生育していた。葉や花の形はボタンネコノメソウに似ているが、がく裂片が黄色い色をしており、また葯の色も黄色であった。根生葉には葉脈が白く浮き出ていることから、ボタンネコノメの品種であるキンシベボタンネコノメとした。県内での分布情報はほとんどなく、以前開田高原で観察したことがある(上野・上野 2011)。また、松本市上高地に本種が多く生育しているという情報があり、まだ現地で確認したことはないものの、上高地の近くである岐阜県側の高原川周辺には本種が非常に多く生育していることから、その可能性が高い。

ゴマノハグサ (ゴマノハグサ科)

Scrophularia buergeriana

・大桑村のぞきど 850 m 2013 年 7 月 21 日

NAC167739

高原の急斜面の草原にゴマノハグサが数株生育しているのを見つけた。周囲にはキキョウやオオナンバンギセルなどの草原生の植物も見られた。長野県版レッドデータブック(長野県 2002)には大桑村での記録はないものの、土田(2011)には分布に大桑村が含まれていることから、近年見つかったものと思われる。

オオナンバンギセル (ハマウツボ科)

Aeginetia sinensis

・王滝村おんたけ高原 1400 m 2013 年 8 月 4 日

NAC167745

ススキの群生する見晴らしの良い草地に、あちこちにオオナンバンギセルが生育していた。ナンバンギセルと比べると、やや植物体が大きく、花卉の縁に鋸歯があることで区別される。近くでは大桑村でも観察した。

ヒトツバテンナンショウ (サトイモ科)

Arisaema monophyllum

・松本市波田 1000 m 2013 年 5 月 28 日

NAC167741

溪流沿いの林道脇に、あちこちで花を咲かせていた。本種の葉は 1 枚で葉軸が発達し、付属体は細い棒状で、前に曲がったようになる。仏炎苞の内側に紫色の模様があるので、容易に区別できる。県中部では比較的溪流脇で見かけることの多いテンナンショウの一つで、本州中部地方に産する日本固有の植物である(加藤・海老原 2011)。

イナヒロハテンナンショウ (サトイモ科)

Arisaema inaense 写真 4

・松本市波田 1000 m 2013 年 5 月 28 日

NAC167740

溪流を歩いているときに、流れの近くで数株のイナヒロハテンナンショウを見つけた。葉は 1 枚で、5~7 枚の小葉に分裂し、葉軸は発達せず、花よりも上につく。また、筒部の白い筋は盛り上がるなどヒロハテンナンショウに良く似ている。県内では、穂高町、駒ヶ根市、飯島町での記録があったが、最近、塩尻市、朝日村(上野・上野 2012)、辰野町(上野・上野 2013)でも見つかり、今回松本市でも見つかったことから、県中部に比較的広く分布することがわかってきた。本種は日本固有の植物で岐阜県と長野県に産する(加藤・海老原 2011)。

ムカゴソウ (ラン科)

Herminium angustifolium 写真 5

・王滝村 2013 年 8 月 4 日 NAC167734

日当たりのよい草原の斜面を歩いているときに、ススキに交じって小さい植物が目立たない花を穂状に咲かせているのを見つけた。葉は細長い線形で、花は薄い黄緑色をしており、唇弁は 3 裂しているが、中央の裂片はほとんど突起状で短い。距は無い。本種は長野県では 1924 年に軽井沢から、また 1951 年に王滝村で奥原弘人氏によって採取された記録(清水 1997)があるものの、その後見つかったいなかったとのことで、絶滅種として扱われていた(長野県 2002)。本種は北海道から琉球、中国、朝鮮に分布するとされるが、全国的には数が減っているようで、千葉県や神奈川県ではほとんど見られなくなっているという(千葉県史料研究財団 2003、神奈川県植物調査会 2001)。

シナノショウキラン (ラン科)

Yoonia flava 写真 6

・塩尻市榑川羽瀧 1200 m 2013 年 6 月 30 日
NAC167736

溪流脇に数株が花を咲かせているのを見つけた。
従来はキバナノショウキランとされていたものが、
別種とされた(長野県 2002)。塩尻市では、榑川
地区白川で記録されたことがあったが、その後見
つからなくなっていた、との記載がある(塩尻市
2006)。南アルプス、中央アルプスを中心に分布す
る長野県南部に固有の植物である(加藤・海老原
2011)。

謝辞

本報告の作成にあたり、貴重な情報と助言をいた
だきました長野県環境保全研究所&ハーバリウム
(NAC)の大塚孝一様には、心より感謝いたします。

引用文献

上野勝典・上野由貴枝 (2011) 新産地報告 (6).

長野県植物研究会誌 44: 33-36.

上野勝典・上野由貴枝 (2012) 新産地報告 (7).

長野県植物研究会誌 45: 43-46.

上野勝典・上野由貴枝 (2013) 新産地報告 (8).

長野県植物研究会誌 46: 115-118.

神奈川県植物調査会 (2001) 神奈川県植物誌. 神
奈川県立生命の星・地球博物館.

加藤雅啓、海老原淳編集 (2011) 日本の固有植物.
東海大学出版会.

佐竹義輔・大井次三郎・北川四郎・亘理俊次・富
成忠夫 (1982) 日本の野生植物Ⅱ 草本 離弁
花. 平凡社.

塩尻市 (2006) 残したい塩尻の動植物. 塩尻市.

清水建美監修 (1997) 長野県植物誌. 信濃毎日新
聞社.

千葉県史料研究財団 (2003) 千葉県の自然誌.
千葉日報社.

土田勝義監修 (2011) 信州の気象植物と森林づく
り. 信濃毎日新聞社.

長野県 (2002) 長野県版レッドデータブック 維管
束植物編. 長野県自然公園協会.